

※最新版は、

[https://www.nise.go.jp/nc/report\\_material/research\\_results\\_publications/leaf\\_series](https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series)  
から直接ダウンロードできます。



# 特別支援教育リーフ Vol.19

## 板書を書き写すことが苦手な 子供の理解と支援



## 子供に寄り添いながら「なぜだろう？」と背景を探ってみましょう

一見すると、同じ「板書を書き写すことが苦手な子供」であっても、背景となる要因には実に様々なものがあり、一人一人子供が違えば、背景の要因も違ってきます。「板書を書き写す」という一場面だけを抜き取って考えるのではなく、子供一人一人との対話を重ねていきながら、学校生活全般の様子の中から、少しずつ背景となる要因を探っていきましょう。

また、このような苦手さのある子供は、決してそうではないのに、学習意欲が低いと勘違いされたり、怠けていると思われて注意されたりするといった、誤解を受けることもあります。

子供の気持ちに寄り添いながら、困難さの軽減につながる取り組みについて、一緒に考えてみましょう。その子供への手立てや工夫が、他の子供たちにとっても有効なものとなることもあります。

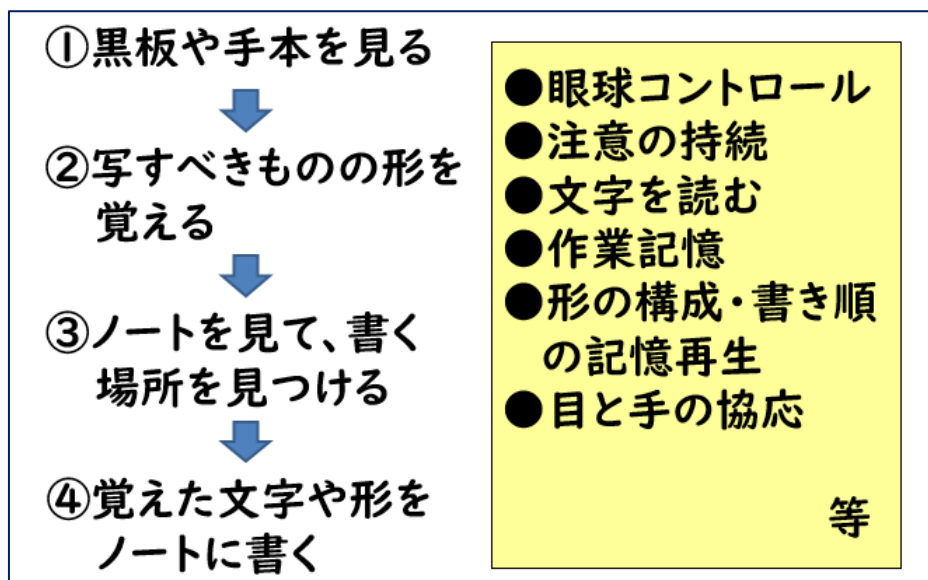
- ◆ 板書を書き写すために必要となる力について考えてみましょう。
- ◆ 子供の困難さを想像し、その子供に応じた具体的な支援を考えてみましょう。
- ◆ 体の動きや感覚にも意識を向けて、どのような支援があれば楽になるのか、子供と一緒に考えてみましょう。

## 板書を書き写すために必要な力について

学習に取り組む上で、板書を書き写すことは重要な活動の一つです。しかし、この活動を苦手としている子供の姿を目にすることがあります。ここで、板書を書き写すためにはどのような力が必要なのかについて、考えてみましょう。

板書を書き写す活動には、①黒板や手本となるものを見る、②写すべきものの形を覚える、③ノートを見て書く場所を見つける、④書こうと思っている文字の形の構成、書き順などの記憶を再生する、という一連の流れがあります。

ここで必要となる力には、眼球のコントロール、注意の持続、文字を読む、作業記憶、形の構成・書き順の記憶再生、目と手の協応などといったものが挙げられ、さらには、これらを連動させる力も必要だと考えられます。



## 困難さに応じた具体的な支援について

### 【例：眼球のコントロールに困難さがある場合】

#### ①想像される子供の様子

- ・遠くの黒板から手元のノートへの視線移動をスムーズに行うことが難しく、どこから書き出せばよいかその都度探したり、必要な箇所に視線を合わせたりすることが難しい。

#### ②困難さに応じた手立て例

- ・タブレット等で黒板を写真で撮影し、板書すべき内容を手元に確保できるようにすることで、写すべき内容とノートの両方を最小限の眼球移動で確認することができる。



#### ③クラス全体への取組例

- ・板書と同じ内容をプリントで準備し、必要な箇所のみを書き込めるようにする。



### 【例：注意の持続に困難さがある場合】

#### ①想像される子供の様子

- ・板書を書き写すときに何度も見て確認することが必要だったり、一度に書き写せる分量が少なかったりする。



#### ②困難さに応じた手立て例

- ・授業のなかで「書く」ときと「聞く」ときを明確にして、「書く」ことに集中して取り組めるようにすることで、注目すべきところに視線や意識が向けやすくなる。



#### ③クラス全体への取組例

- ・大切な部分には必ず枠囲みをしたり、特定の決まった色で書くようにしたりする。



### 【例：形の構成・書き順に困難さがある場合】

#### ①想像される子供の様子

- ・へんかつくりが逆になってしまったり、全体的なバランスが整わずに枠からはみ出してしまったりするため、何度も書き直しが必要になる。



#### ②困難さに応じた手立て例

- ・「よこ・たて・よこ」などと声に出しながら、体を大きく使って空中に大書きをしてから、書いてみるなどの多感覚を活用した方法が有効となることもある。

#### ③クラス全体への取組例

- ・文字の成り立ちとなる絵や語呂合わせ等で覚える際に印象付ける学び方を取り入れる。



## ☆さらなる理解のために☆

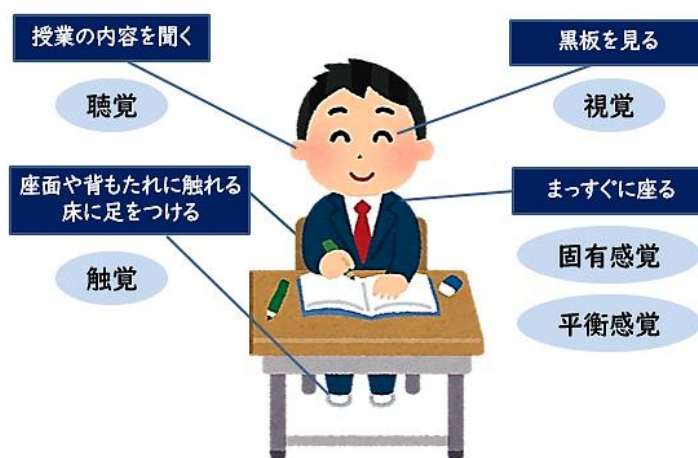
### 子供の「体の動き」や「感覚」にも意識を向けてみよう！

体を動かすために重要となる感覚に、平衡感覚、固有感覚、触覚、視覚、聴覚があります。

例えば、「椅子に座った姿勢を保持することが難しい」子供の中には、これらの感覚に過敏さや鈍感さがあり、そのために教科書や黒板の文字を読んだり書き写したり、何かを観察したりすることが難しいことがあります。

また、手先を使った細かい作業が苦手だったり、文字がうまく書けなかったり動作が雑に見えることもあるため、もしかすると、その子なりに一生懸命やっているのに、「授業態度や学習意欲の問題」と誤解されたり、「ふざけないでまじめにやりなさい！」と叱責されたりすることもあるかもしれません。

その子の「感覚」はその子にしかわからないものであり、発達障害のある子供の中にはこれらの感覚の過敏さや鈍感さに苦しんでいる子供も少なくないと推察されることから、一方的な教師側の目線で「板書が書き写せない困った子」と捉え、単に書くことを急がせたり、反復練習ばかりをさせたりすることのないようにしましょう。



### <参考文献等>

○「インクルポケット」 やまぐち総合教育支援センターふれあい教育センター  
(令和元年～令和2年度研究成果物)



「支援のポケット」では、子供たちの学習上又は生活上の困難さを6つに分類し、背景として考えられるいくつかの要因に応じた指導・支援の手立てが提案されています。

○ 発達の気になる子の体の動き しくみとトレーニング (監修者：川上康則、発行者：田村正隆 ナツメ社) (令和3年3月)

園や学校の中で見かけることのある具体的な子供の姿を例に挙げ、「感覚」や「体のしくみと動かし方」に着目した取組のヒントが数多く掲載されています。

○ もっと知ろう発達障害の友だち③ LDの友だち (編著者：上野一彦、発行者：上野良治 合同出版社) (平成29年3月)

「事例編」にはLDの子供によくみられる特徴的な行動とそれに応じた具体的な支援について、「知識編」にはLDの子供を支援するにあたり知っておきたい知識がQ&A形式で紹介されています。

独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
NISE National Institute of Special Needs Education

★NISEのホームページ  
<https://www.nise.go.jp/nc/>



編集 情報・支援部

TEL 046-839-6803 (代表)

初版発行 令和6年9月